

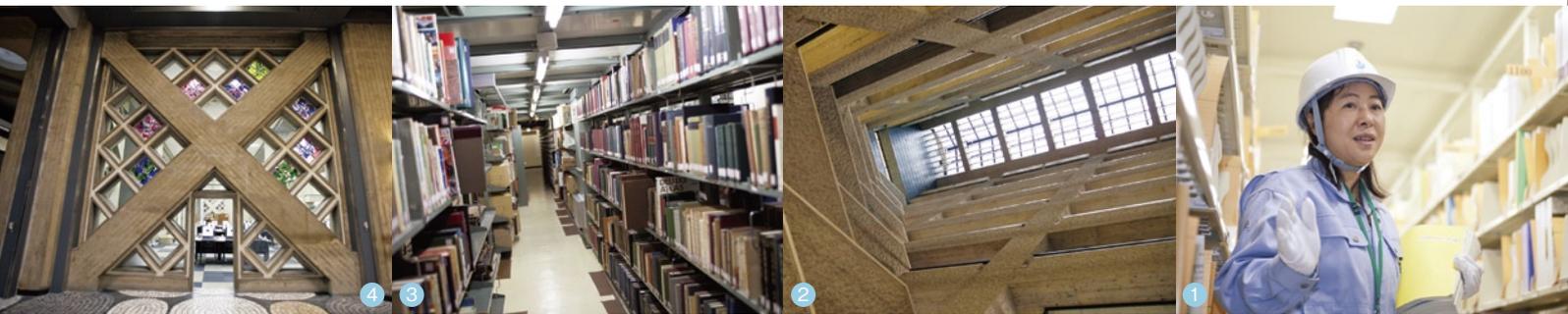
業務密着ルポシリーズ

げんぱりよく 現場力

File 8

官庁営繕部 特別整備室

多くの人が訪れ、多くの人が働く、国民の共有財産である官庁施設。安全に、安心して利用できる施設としての役割を果たすため、「官公庁施設の建設等に関する法律」に基づき整備がなされている。その整備を一手に担う官庁営繕部の中で、日本の国家中枢機能が集中する東京・霞が関周辺地区を担当する、特別整備室の業務に密着した。



1. 国立国会図書館新館の書庫を案内する岩崎 2. 地下8階まで続く新館の書庫から、中央の吹きぬけを見上げる。1日中書庫で作業する人に閉塞感を与えないための構造で、本を傷める直射日光は天窓のフィルムで遮られている 3. 新館のほかに本館にも書庫がある 4. 本館目録ホールにある、スタンドグラスがはめこまれた格子壁（工事前）

日本の中核を支える

「国土交通省官庁営繕部」。何も知らずに聞くと、一体どんな部署なのか見当が付きにくいのではないだろうか。営繕とは、建築物の建築、修繕または模様替えのことをいい、事務庁舎、研究所、教育文化施設といった国の建築物(官庁施設)の整備や保全指導を行うのが官庁営繕部だ。

足早に通勤する人たちに交ざり、まず訪れたのは、国会議事堂を中心に首相官邸や政党本部などを構える東京・永田町。隣接する行政機関の庁舎が建ち並ぶ霞が関とともに、立法・司法・行政の中枢機能が集積する地区である。

向かった先は、日本で唯一の国立図書館である国立国会図書館。そこで改修工事が行われているのだという。空はあいにくの雨模様。冷たい雨が降りそそぐなか案内してくれたのは岩崎州美子だ。近年、女性が増えてきたとはいえ、まだまだ少数派である女性技官で、3人の子の母親でもある。

営繕の仕事は、各省庁など国の機関から依頼を受け、工事をマネージメントするというもの。いわば省庁と工事を請け負った民間会社との仲介役だ。岩崎が所属する特別整備室は、霞が関周辺の整備を担当する。「霞が関周辺という特殊な地域なので、各省庁の業務に支障が出ないように調整するのが一番のポイントです(岩崎)。

貴重な書籍も眠る国会図書館

職員専用のエレベーターに乗り、新館の地下にある書庫へと降り立った。国内の出版物を網羅的に収集し、文化的財産として蓄積している国立国会図書館。書庫に入ると見渡す限り本、本、本……。これが地下8階まで続くから驚きた。

無数の出版物で埋め尽くされる書庫の天敵は、火と水である。火災報知器も通常より感度の良いものを採用し、火災が発生した場合は水でなく消火ガスが噴出するのだという。「書庫の工事は本を傷つけないように、とにかく気をつかっています。本棚ひとつひとつをシートで保護するなど、細心の注意を払いますね」。

そう話す岩崎に連れられ、本館の目録ホールへと移動した。現在、国立国会図書館本館では耐震補強工事が進められている。スタンドグラスがはめ込まれた格子壁が印象的なホールでは、格子壁を格子鉄骨に変える、元のデザインを生かした工事が行われていた。

目録ホールは一般利用者も出入りするため、工事の箇所は全体を仮囲いされ、外から中の様子は窺えない。その中に足を踏み入れると、さまざまな建設機械が所狭しと置かれ、格子壁が取り外された柱などにはアンカーボルトが取り付けられており、一気に工事現場らしい空間となった。

岩崎の主な仕事は建築工事の監督業務。設計図書をもとに、品質や施行、安全面に問題はないか、くまなくチェックして

いく。岩崎は建築を専門とするが、その他には空調関係や衛生関係を整備する機械職、照明器具や受変電機器など電気系統を整備する電気職がある。

目録ホールのほか、事務棟と書庫棟を鉄骨でつなぐことで地震による揺れを抑える耐震補強工事なども進められている。工事は大きな音を伴うため、利用者が来館する日中は避け、夜間や休館日に行われる。岩崎自身、朝まで立ち会ったこともあるそうだ。

現場を後にし、施工会社と打ち合わせをするという岩崎に同行した。設計を担当したチームとともに打ち合わせはスタート。途端に室内はピリッとした緊張感のある雰囲気……。普段は優しい口調の岩崎も、発言するその声は鋭い。

打ち合わせ後に指摘すると、「言わないと仕事にならないから。それぞれの立場で意見はあると思うので、何とか折り合いをつけて、一番いいところに持っていく」と心掛けてますね」と笑って話した。

技官として、母親として

翌週、特別整備室のある霞が関中央合同庁舎第二号館を訪ねた。フロアは多くのデスクや棚、事務機器で埋められている。その一角に、慌しく電話対応をする岩崎の姿が。現場にいる時間が大半を占めるため、メール確認や書類確認といったデスクワークは朝一番でこなすことが多いそうだ。

特別整備室の職員は現在約50名。その



大半は技官で、女性技官は岩崎を入れて2名である。岩崎は建築の勉強をし設計に関わる仕事をしたいと、当時の建設省に入省して17年目になる。しばらくは地方で設計の仕事を担当していたそうだ。途中、3度の出産で仕事を離れた期間もあるが、今は家族の協力のもと、子育てをしながら現場を飛び回っている。

「設計図が形になっていくこの仕事は、とてもやりがいがあります。圧倒的に男性が多い職種なので、入省当時は正直苦労したところもありましたけど」と、あつげらんかと笑って話す岩崎。技官としても母親としても、忙しい毎日を送る、パワフルな女性である。

官庁営繕部のもう一つの使命

特別整備室を後にし、少し歩いたところにあるもう一つの現場、経済産業省へとやって来た。はじめに案内されたのは免震装置が設置された免震層。

免震レトロフィット工事とは、国立国会図書館で行っている耐震補強工事が壁や柱を強く頑丈にするのに対し、免震装置により地震の揺れを吸収して抑えるというものだ。免震層には72基もの免震装置が柱に備えられている。2年半かけて行われたこの工事は、経済産業省の建物の下を掘るところから始まったという。背中をかがめず立っていられる高さのためメンテナンスもしやすく、見学に来た海外の技術者は、こんなにきれいな免震層は見たことがないと驚いたそうだ。

特別整備室では官庁施設の耐震化を押し進めるほか、その機能、性能を維持できるように各省庁に対して建物・保守・修繕などの技術的バックアップも行う。

「設備や施設に支障が出てから替えるのと、事前に替えるのでは全然違うんです。壊れてからだと、入れ替えるのに数カ月業務がストップすることも考えられます。計画的に経済的に改修やメンテナンスができるように指導を行っています。これはとても大事なんです」（岩崎）。新たに建てるだけでなく、今ある建物を活用していく。欠かせない役目の一つだ。その他、官庁施設のバリアフリー化、PFI事業※、霞が関周辺を品格を備えた地区とするための整備などにも力を入れているそうだ。

免震層から地上に戻り、地盤沈下による建築物の補修・補強のための外構工事や内装工事の現場を見て回った。経済産業省の現場だけでも、広い庁舎内を昇ったり降りたり、外に出たり中に入ったりと、常に足を動かしている状態。少し息切れ気味のわたしをよそに、岩崎は涼しい顔だ。快活に進むその後ろ姿は、何より頼もしいものであった。

国家中枢機能が集中し、迎賓館といった歴史的建築物なども建つ霞が関周辺地区。整備を担う彼女らは、その機能を支え、日本の財産を守り受け継ぐ緑の下の力持ちとして、今日も現場を駆け巡る。

※民間資金や経営手法・技術力を活用して公共施設などの社会資本を整備する事業



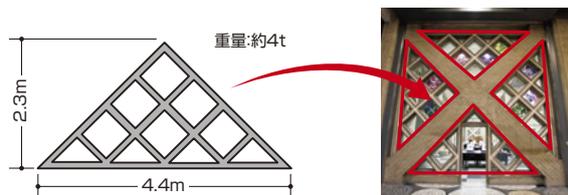
5. 工事が始まり仮囲いされた格子壁 6. 建設機械などで仮囲いの中はいっぱい 7.8. スケール(メジャー)を使って図面と照らし合わせ、岩崎が細かくチェックしていく 9. 工事は丁寧に進んでいく 10. 屋上に設置されたクレーンは、さらに大型のクレーンにぶら下げて運んだという 11. 設計チームとともに施工会社との打ち合わせに臨む岩崎 12. 官庁営繕部のある霞が関のオフィス 13. 限られた時間の中でのデスクワークに追われる岩崎 14. 免震装置が設置された経済産業省の免震層。柱の間に挟まれたゴムが揺れを吸収する働きをする 15. 「苦勞するところも多ですけど、みなさんの知恵を借りて、知恵を絞って、何とか乗り越えています」(岩崎) 16. 経済産業省の工事担当者と施工会社の方々と。双方をつなぐのが岩崎の役目だ 17. 経済産業省での外構工事。地面を掘り返すべく、ショベルカーがうなる 18. 内装工事中の経済産業省の一室 19. 岩崎の後ろには、天井まで組み立てられた足場が広がる 20. 岩崎が家族旅行に訪れた際の一枚。家族との時間も思いやり楽しむ、これがパワフルな岩崎の秘訣かもしれない 21. 国立国会図書館新館の目録ホール。排煙窓・ブラインドなどの改修工事を担当し、動作点検をしている

耐震補強工事

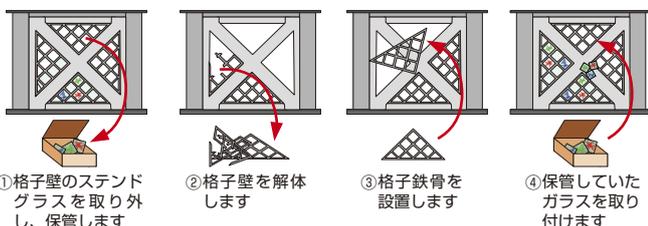
国立国会図書館では、大規模地震時における安全性の向上を図るための耐震改修工事を行っています。

本館目録ホールを囲む壁は、現在の格子壁のデザインを生かし、コンクリートの格子壁を三角形の格子鉄骨にすることで耐震補強します。

約4tもある格子鉄骨はいくつかのチェーンブロックで吊り上げ所定の位置に設置します。(P12写真)

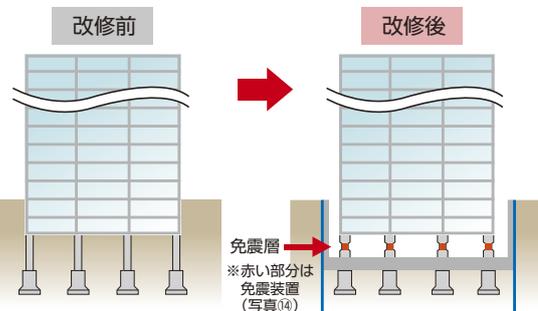


《工事の進め方》



基礎下免震レトロフィット工事

経済産業省では、既存建物の基礎下部に免震装置を設置して建物全体の免震化を図る、基礎下免震レトロフィット工事を行いました。掘削工事は、山留壁、擁壁、仮設水平スラブを構築し、耐震安全性を確保しながら進めました。



《工事の進め方》

